

# 地質調査技士に合格して

土木地質株式会社 菅原 仁史



## 1.はじめに

地質調査技士の検定試験は、今年度の挑戦で現場技術・管理部門に合格することができました。これまでは、業務が多忙であることを理由にして、まったく勉強せずに試験に挑んでいました。経験だけで試験に合格することは難しいと思い、今年は試験対策をしっかり準備してから資格試験に挑みました。

参考になるか分かりませんが、自分の勉強方法や体験記をまとめさせていただきます。

## 2.試験対策について

### (1) 択一問題について

全地連のホームページより過去5年分の問題を印刷して、まずはそれを解答し、不正解の問題のみを重点的に調べて勉強しました。方法としては、事前講習会で頂いたテキストや基準書等を調べたり、上司や先輩に教えてもらいました。分からない問題については繰り返し実践して、解けなかった問題を徐々に理解し身につけることで、択一問題の正解率が向上しました。

### (2) 記述式の選択問題について

盛土、軟弱地盤、液状化現象等についての調査方法や試験、対策工、原位置試験結果の利用等を中心に勉強しました。記述式の選択問題は、毎年どんな問題が出題されるか予想がつかないので、文章構成や書き方を中心に、上司に文章を添削してもらいました。後はそれに基づいて、当日どのような問題が出題されても記述できるように、様々な問題を想定して繰り返し勉強しました。

当日の試験では、経験記述の問題を選択し解答しました。直近で担当した業務を振り返り、調査地の地盤状況、実施した調査やその目的、課題点とその解決策、調査後の反省点等について、文章構成を頭の中でしっかり組立ててから記述しました。

必須問題については、近年、地質調査技士としての倫理綱領が出題されていることから、こちらもしっかり勉強しました。

記述式問題については、上司や先輩に何度も添削してもらい、様々な出題パターンに対応できるよう、どれだけ準備ができるかが重要だと思います。

### (3) 試験を終えて

試験対策で一番大変だったことは、やはり勉強時間の確保でした。日中は業務で忙しく、時には遅くまで残業することもありました。限られた時間を有効に使い、時間を決めて計画的に勉強しました。短い時間でも内容のある勉強を心がけ、継続的に勉強したことが合格へ繋がったと思います。

## 3.最後に

試験合格にあたり、お世話になった上司や先輩の皆様には、心から感謝申し上げます。

無事に試験に合格し、資格を習得することができましたが、これでやっとスタートラインに立つことができたと思います。今後も調査業務に携わるにあたって、いろいろな知識を学び技術の向上を目指して、日々の業務で活躍できるよう努力します。

## 基礎地盤コンサルタンツ株式会社 茂木 葵



私は令和元年度（第54回）地質調査技士資格検定試験を受験し、無事に合格することが出来ましたので、合格に至るまでの体験記を書かせて頂きます。

### ◇受験にあたって◇

弊社では、調査系（土質・地質）の部署に所属する技術者において、地質調査技士は必須の資格となっております。

先輩方も、受験資格を満たした入社から4年目の時点で合格しており、私にとっては大変なプレッシャーとなっていました。

### ◇事前講習会◇

受験申し込み後、業務多忙等により、なかなか受験勉強を始めることが出来ませんでした。それでも、無事に合格できたのは、協会主催の「事前講習会」を受講したためと思います。

事前講習会は、普段、実務をされている講師からの分かり易い説明でしたので、テキストの内容が良く理解できました。また、最近の傾向（洋上風力・物理探査等）も踏まえており、興味が出る内容ばかりでした。

講習会を受講したことによって、受験に際して意欲が沸き、机に向かうようになりました。

### ◇受験勉強◇

勉強は、午前の択一式問題については、過去問と講習会のテキストを主に使用して進めました。過去問は、5年分を繰り返し解いて、間違えた問題についてはテキストを見て、内容を理解していきま

した。過去問での演習によって、普段、「理解しているつもり」が多いことに気付かされました。受験勉強ではありますが、大変良い機会になったと感じています。

午後の記述式問題については、例年同じような問題が出題されていたため、何度も書いて覚えました。ただ、記述式問題は、文字数に制限があるため、答案用紙に収まるように練習する必要があります。

社会人になってから手を動かして長文を書く機会が少なかったため、知っている単語でも漢字が思い出せなかったりと、地味に大変でしたので、実際にペンで字を書く練習をすることをお勧めします。

### ◇試験◇

過去問と比べて、今回の試験では、地質系・物理探査系の問題が多かったように感じました。初めて聞くような単語が多く、前半から気分が落ち込んでしまっていました。それでも、午後の記述式問題に集中して取り組み、時間ギリギリまで諦めずに筆を走らせました。

### ◇最後に◇

無事に合格することが出来ました。まだまだ理解していないことも多いと、勉強や試験を通じて実感しました。

これから、地質調査技士として、後輩のお手本となるよう、積極的に地質調査の知識・経験を積んでいきたいと思

## 中央開発株式会社 坂口 巧



私は今年度（令和元年度）地質調査技士資格検定試験を受験し合格することができました。今回で2回目の挑戦でした。私は今後資格検定試験を受験される方のために受験体験記としまして試験対策と1回目の失敗談について書かせていただきます。

### 1. 受験対策（択一問題）

地質調査技士検定試験の勉強は1回目も2回目もとにかく過去問を解きました。過去問は全地連HPに出ています。H19年から過去問がありますがH27から問題形式が変わっているので出題傾向を知るためにH27以降を解くのがオススメです。

問題については、日々の業務に直接係るものが少なく幅広い内容が出てくるので正直わからないところが多かったです。

公開されている過去問の解答は番号のみのため考え方や解き方などがわからず行き詰まることもあるかと思います。「地質調査の実務」等を使うと広く調査についてカバーされているので参考になります。また、直接上司や先輩に聞くのもいいと思います。

事前講習会は少なくとも1回は出るべきです。配布されるテキストは過去に出題された内容がまとめられているので過去問対策になります。実際の試験では過去問と似た問題が6～7割出題されるので繰り返し解きました。繰り返す際はできた問題は解く必要はありません。できなかった問題を抽出し、自分の苦手分野を潰していくことに時間を掛けます。

### 2. 受験対策（記述問題）

必須である倫理綱領については毎年内容が決まっているので確実に点が取れるように書いて覚えておくと良いです。な

お、丸暗記ですと字数に制限があり、当日はみ出してしまうのであらかじめ規定の解答用紙に書いて覚えることをオススメします。

選択問題については4分野（地質、土質、室内試験、探査）が出題されました。出題傾向があるので過去数年分を見ておくといいです。全て解く必要はありません。自分の得意分野と理解できる分野の2分野程に絞って解答を作っておきます。1分野2～3パターン程解答を用意しておけば本番で組み合わせて応用が利きます。解答が完成したら時間がある都度読んで修正しながらいつでも書き出せる程度まで覚えめました。試験2日前には何も見ずに通して書いてみます。記述は意外に手が疲れるので本番に慣らしておく練習です。

### 3. 1回目の失敗

択一に関しては専門外の勉強不足と机上の勉強だけではイメージに限界がありました。他分野の現場や試験等経験しておくとう理解が深まります。

記述（選択）については初歩的なミスですが問題を読み間違えていました。問題文は、あなたが経験した「岩盤を対象とした土木構造物に関する地質調査」についてでしたが土質を対象にしたと勘違いして書いてしまいました。当たり前ですが問題は焦らずにしっかり読んで書き始めてください。

### 4. 最後に

資格を取るための勉強ではなく、せっかく幅広く基本を勉強するのでこの検定試験を機に視野を広げると今後に生かせると思います。